

令和4年度 事業報告 総括

令和4年1月に希望の家でも新型コロナウイルスの感染者が出てしまい、令和4年度は感染者が出ては終息することを繰り返す年度となった印象でした。全ての施設及び事業所で感染者が出たのですが、障害者支援施設の場合は利用を休止することができず、よほど重篤な状態でないと入院もできないため、引き続き支援員が1日中生活面を支援しながら看病することになり、必然的に支援員にも感染が広がるという解決方法のない問題が発生する悪循環となりました。施設内への感染リスクを少しでも減らすため、利用者の方々には我慢を強いる生活となってしまいました。支援員は責任を果たすべく、感染するリスクを覚悟して感染者の支援に取り組んでくれたことに感謝しています。

やまびこ荘の指定管理者が始まり、定員30名の小規模な障害者支援施設ですが、職員一同協力して施設運営にあたりました。年度当初の業務引継ぎは順調に進んだのですが、以前から不調だった空調機が故障してしまい、夏場は施設内の気温上昇に苦しみました。そのような環境のなか、8月に入所利用者25人のうち20人が新型コロナに感染してしまい、非常に厳しい夏となりました。そもそもの指定管理者交代の要因であった収支面の課題は、鹿沼市に提出した計画では1年目は赤字額を軽減し、2年目で収支0にして、3年目で黒字化を目指す内容でしたが、決算報告では1年目から黒字で終わることができました。

その決算報告においては、日向希望の家の収支は改善されましたが、武子希望の家の収支が悪化しました。武子はヤングリースの休止や感染者発生による事業所休止等が大きく影響しました。また、電気料や燃料費の高騰をはじめとする物価上昇が収支に悪影響を与えましたが、法人全体としては大口の寄付があり黒字を確保できました。作業収入は、JSP班が年間を通して忙しく、大変好調でした。昨年同様年度末に特別工賃を支給しJSP班所属の利用者の頑張りに労うことができました。

利用者においては、入浴中の突然死で1名、病気により入院して治療の甲斐なく他界された方2名、計3名の方が亡くなりました。高齢化・重度化がより進み入院通院が増加傾向にあり、急激な体調悪化により救急車を要請することも日常となっています。それぞれに個別対応を必要とすることになり、支援員の負担が増えています。また通所利用者においては、保護者の高齢化等により施設に入所することを希望する方が増加していますので、今後の対応が課題となっています。

職員においては、社協からの転籍者12名を含め例年より多い22名の採用があり、年度末で182名の職員数になりました。退職者は7名でした。そのなかで35年務めた日向希望の家の管理者だった岩崎氏が家庭の都合で退職しました。長い間お疲れさまでした。その他の退職者は、家庭の都合や自分の夢を掴みたい等、様々な理由がありましたが、職場が嫌で退職した方はいませんでした。利用者支援に不可欠な人材確保が法人運営にとって最重要ですので、今後も色々な手段で職員確保を図っていきます。

令和5年6月には希望の家創立50周年を迎えるため、記念行事等の検討を重ねましたが、新型コロナの感染者が多数出て、隔離対応等感染対策の必要性を実感したこともあり、ささやかに利用者・保護者・職員で行うことにしました。